

長岡バイオエコノミー・コンソーシアム 2022

ポスターセッション

令和4年2月24日

アオーレ長岡 ホワイエ

■ポスターセッション一覧

No	発表団体	タイトル	担当者
1	越後ど発酵 協同プロジェクト	新潟県の食品ロスを ゼロにする	株式会社プラントフォーム 遠崎 英史
2	岩塚製菓株式会社	洗米排水の 有効活用への取組み	マーケティング本部 浅川 慎一
3	株式会社 プラントフォーム	循環型農業 アクアポニックス	代表取締役 山本 祐二
4	株式会社原信	発酵の力で！ 廃棄物の地域循環	原信ナルス オペレーションサービス(株) TQMCSR 部次長 児玉 誠
5	株式会社 ホーネンアグリ	豊かな土を創る ～有機資源を活用した 循環型社会の形成に 向けた取組みについて～	取締役社長 小林 ひかり
6	新潟県農業総合研究所 畜産研究センター	施用効果からみた 各有機質資材の特徴	新潟県農業総合研究所 畜産研究センター 生産・環境科 小柳 渉
7	N.CYCLE	米どころ長岡の 新しい資源循環 「Nサイクルプロジェクト」	株式会社ネオス 村上敦子
8	北越コーポレーション 株式会社	CO2 排出量 実質ゼロへの挑戦	長岡工場 総務担当 佐藤 隆樹
9	緑水工業株式会社	YM 菌による 高温発酵肥料	バイオマス事業部 西山 康
10	寺泊の魚を食べよう プロジェクト 実行委員会	寺泊地域における未利用魚 問題の現状と利活用に関する 取組みの紹介	長岡市 産業イノベーション課 地域おこし協力隊 服部 祥吾
11	株式会社大原鉄工所	大原鉄工所のバイオガス 関連事業と独自技術	環境営業部 高田 隆太
12	JA 越後ながおか 農業協同組合	地域資源活用で日本一の コシヒカリ産地作り	営農部長 長部 一稔

■ポスターセッション一覧（概要）

※新型コロナウイルス感染症対策のため、発表者が不在場合があります

No.1 新潟県の食品ロスをゼロにする

[越後ど発酵協同プロジェクト]

発表者：株式会社プラントフォーム 遠崎 英史

概要：発酵・醸造のまち・長岡に本社を構える4社（柏露酒造株式会社、新潟県醤油協業組合、有限会社たちばな、株式会社プラントフォーム）が、新潟県内で発生する食品ロス推定9万トン(2018年度)の内、食品製造業で発生する約1万トンを削減するために「越後ど発酵」プロジェクトを2021年8月6日(発酵の日)に発足させました

No.2 洗米排水の有効活用への取組み

[岩塚製菓株式会社]

発表者：－

概要：製造工程で発生する製品ロス等の廃棄抑制や工場排水中の食物残渣の有効利用を進めています。新たに長岡の新資源循環モデル「N.CYCLE」に参画し洗米水に含まれる米由来凝集物のアップサイクル化に取り組んで参ります。

No.3 循環型農業アクアポニックス

[株式会社プラントフォーム]

発表者：代表取締役 山本 祐二

概要：養殖と水耕栽培を同時に行う循環型農業アクアポニックスの紹介。当社が手掛けるプラントの建設状況、生産野菜の販売状況、養殖水を基にした有機肥料の開発など、最新の事業状況と共に当社の取り組みを紹介します。

No.4 発酵の力で！廃棄物の地域循環

[株式会社原信]

発表者：－

概要：スーパーマーケットでは、多様な廃棄物が排出されますが、それらは発酵の力で生まれ変わっています。

地元長岡の技術の活用や異業種の連携による廃棄物の地域循環について発表いたします。

No.5 豊かな土を創る

～有機資源を活用した循環型社会の形成に向けた取り組みについて～

[株式会社ホーネンアグリ]

発表者：取締役社長 小林 ひかり

概要：地域の有機資源を有効活用する循環型社会の実現が求められています。

また、農業分野においては土が硬い痩せた農地が増えています。有機資源と微生物を活用した豊かな土づくりを提案し、これらの課題解決を目指します。

No.6 施用効果からみた各有機質資材の特徴

[新潟県農業総合研究所畜産研究センター]

発表者：－

概要：農地に施用される有機物である有機質資材を施用目的に応じて効率的に活用するために、様々な有機質資材について、各施用効果の指標となる化学分析値を測定・集計することにより施用効果の特徴とバランスを示す。

No.7 米どころ長岡の新しい資源循環「Nサイクルプロジェクト」

[N.CYCLE]

発表者：株式会社ネオス 村上敦子

概要：長岡の新しい資源サイクル「Nサイクル」は3企業及び1大学が連携をとり、お米の物質循環で長岡ブランドの形成を目指し、長岡のバイオコミュニティの実現の促進を図ることを目指し、プロジェクト稼働しております。

No.8 CO2 排出量実質ゼロへの挑戦

[北越コーポレーション株式会社]

発表者：－

概要：北越コーポレーションは地球温暖化を防止するために、1995年から積極的なCO2排出削減対策を進めてきました。木材からパルプを作る時に発生するバイオマス燃料の「黒液」、または木質燃料等を用いて稼働するバイオマスボイラーを各拠点工場に設置し、重油の使用量を大幅に削減しております。

No.9 YM菌による高温発酵肥料

[緑水工業株式会社]

発表者：－

概要：YM菌とは高温好気条件下で活発に働き、あらゆる有機性廃棄物を発酵分解する好気性細菌です。

人の生活に由来して発生する有機物（汚泥、残渣等）を資源化（栄養豊富なコンポスト肥料）することにより循環型社会の推進に取り組んでおります。

No.10 寺泊地域における未利用魚問題の現状と利活用に関する取り組みの紹介

[寺泊の魚を食べようプロジェクト実行委員会]

発表者：長岡市産業イノベーション課 地域おこし協力隊 服部 祥吾

概要：寺泊漁業協同組合と長岡市は、海の温暖化によって近年問題となっている「未利用魚」を含めた漁業の課題解決に取り組むと同時に、啓発活動を行うことで、地場産魚介類の地産地消および未利用魚の利活用を促します。

No.11 大原鉄工所のバイオガス関連事業と独自技術

[株式会社大原鉄工所]

発表者：－

概要：長岡から全国へ、大原鉄工所のバイオガス関連の独自技術と関連事業の事例をご紹介します。2050日本のカーボンニュートラル実現に向けて技術で貢献して行きます。

No.12 地域資源活用で日本一のコシヒカリ産地作り

[JA 越後ながおか農業協同組合]

発表者：－

概要：近年は温暖化による気候変動が、品質に大きく影響を及ぼします。減化学肥料の5割削減（化学窒素量の使用制限）は、食味の向上には欠かせませんが、登熟期以降の暑さは稲の体力を奪い、結果的に栄養不足を招き、品質低下要因となります。

地域内に有用な資源を活用した堆肥で低コストで環境に配慮した安全で旨い日本一のコシヒカリ産地を目指します。